



平成 26 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 J Xホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 松下 功夫
 コード番号 5 0 2 0 東・名証第 1 部
 問合せ先 財務 I R 部 I Rグループマネージャー
 鈴木 隆次
 (電話番号 03-6275-5009)

平成 27 年 3 月期 第 2 四半期累計期間及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 26 年 5 月 9 日に公表した平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想数値と平成 27 年 3 月期通期の連結業績予想につき、最近の業績の動向を踏まえ、修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期 第 2 四半期累計期間の連結業績予想数値の修正
 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 26 年 5 月 9 日発表)	5,500,000	△30,000	0	0	-
今回修正予想(B)	5,700,000	10,000	45,000	30,000	12 円 7 銭
増減額(B-A)	200,000	40,000	45,000	30,000	12 円 7 銭
増減率	3.6%	-	-	-	-
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	5,777,689	139,429	176,115	89,706	36 円 8 銭

2. 平成 27 年 3 月期 通期の連結業績予想数値の修正
 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 26 年 5 月 9 日発表)	11,720,000	145,000	210,000	110,000	44 円 24 銭
今回修正予想(B)	12,050,000	175,000	245,000	120,000	48 円 26 銭
増減額(B-A)	330,000	30,000	35,000	10,000	4 円 2 銭
増減率	2.8%	20.7%	16.7%	9.1%	9.1%
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期)	12,412,013	213,657	302,329	107,042	43 円 5 銭

3. 修正の理由

(第2四半期累計期間の連結業績予想修正の理由)

第2四半期累計期間の連結業績予想は、原油価格が前回予想(平成26年5月9日発表)と比較して上昇していることから、売上高は対前回予想比3.6%増の5兆7,000億円となる見通しです。

原油価格の上昇によって在庫影響(総平均法によるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響)による損失が縮小する見込みであることにより、営業利益は対前回予想比400億円増益の100億円、経常利益は対前回予想比450億円増益の450億円、当期利益は対前回予想比300億円増益の300億円となる見込みです。なお、在庫影響を除いた経常利益は、対前回比100億円増益の650億円となる見通しです。

〔在庫影響(※)〕(第2四半期連結累計期間) (単位:億円)

	前回予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)
在庫影響	△550	△200	350
在庫影響を除いた 営業利益相当額	250	300	50
在庫影響を除いた 経常利益相当額	550	650	100

※総平均法によるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

(通期連結業績予想修正の理由)

通期の連結業績予想は、原油価格の上昇によって、売上高は対前回予想(平成26年5月9日発表)比2.8%増の12兆500億円となる見通しです。

原油価格の上昇によって在庫影響による損失が縮小する見込みであることにより、営業利益は対前回予想比20.7%増益の1,750億円、経常利益は対前回予想比16.7%増益の2,450億円、当期利益は対前回予想比9.1%増益の1,200億円となる見込みです。なお、在庫影響を除いた経常利益は、前回予想と同額の2,700億円となる見通しです。

〔在庫影響(※)〕(通期) (単位:億円)

	前回予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)
在庫影響	△600	△250	350
在庫影響を除いた 営業利益相当額	2,050	2,000	△50
在庫影響を除いた 経常利益相当額	2,700	2,700	-

※総平均法によるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

本見通しは、通期平均で原油価格(ドバイ原油);バーレル当たり105ドル、銅の国際価格(LME価格);ポンド当たり317セント、円の対米ドル相場;101円を前提としております。(前回予想:原油価格;バーレル当たり100ドル、銅の国際価格;ポンド当たり320セント、円の対米ドル相場;100円)

(注) 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、(1) マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化、(2) 法律の改正や規制の強化、(3) 訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以 上